

陳情 不燃ごみの収集について

陳情項目

不燃ごみの収集を現行の週 1 回を見直し、月 1 回程度の適正な回数に減らし、速やかに実施するよう陳情します。

陳情理由

東久留米市はごみ減量化・ごみ資源化の目標を掲げて平成 18 年 10 月から容器包装リサイクル法その他プラスチックの分別収集及びその処理を始めている。この 9 月で 1 年になる。

容リ法その他プラスチックに関する問題点の幾つかを以下に挙げる。

1. ごみ量

容器包装リサイクル法その他プラスチックの廃棄物は、分別収集以前は不燃ごみとして収集していた。不燃ごみ中のその比率は容積にして凡そ 80~90%で、それ以外の不燃ごみは 10~20%である。

2. 収集回数

不燃ごみの収集は平成 18 年 10 月以前は週・1 回であった。

分別収集実施以降、容器包装リサイクル法その他プラスチックの収集及び不燃ごみの収集は夫々週・1 回であり、合わせると、週・2 回になる。これは平成 18 年 10 月以前の 2 倍である。

3. ごみ焼却

不燃ごみに入れられたプラスチックは焼却されている。ごみ焼却の利点はごみ発電が挙げられているが、これの熱効率極めて低い。プラスチック焼却によるエネルギー利用に較べ、焼却による環境負荷ははるかに大きい。

4. 資源化への誘導

一般に、資源は出し易く焼却ごみは出し難くすることが必要、と言われている。資源化への誘導である。例えば周辺市では、容器包装リサイクル法その他プラスチックの収集は週・1 回に対し、不燃ごみの収集は清瀬市では月・2 回（隔週）、東村山市では月・1 回である。

東久留米市では、不燃ごみの量が変わらないのに現在は収集回数が倍になっている。収集回数を増やせば住民サービスが増えるかにみえるが、回数が増えれば、収集経費は増大する。

不燃ごみ収集の合理性を検討すべきである。

平成 19 年 8 月 27 日

東久留米市議会議長 小山 愼一 殿

ごみ 1/2 をめざす市民の会・東久留米

東久留米市南沢 5-13-12

川井 満

